

四国はフロリダになりうるか

1年余り前になりますが、「ローマ人の物語」などの著者として有名な塩野七生さんが雑誌のエッセーに「四国を日本のフロリダに」という一文を寄せています(注)。その論旨を私なりに解釈すると、「すべての道はローマに通じる」と言われた古代ローマは、街道のネットワークによりあらゆる面で活性化が図られており、これからの日本も列島のネットワーク化が必要。そしてその拠点となり得るのが四国で、それが「四国をフロリダにする」、ということのようです。

ご承知の通り、フロリダ州はアメリカ東南部のフロリダ半島全域を占める州であり、巨大なディズニーワールドリゾートがあるなど、アメリカ有数の観光地であり、保養地です。多くのアメリカ人が引退後に余生をフロリダで過ごすことに憧れ、それがアメリカン・ドリームとされていた時代もありました。そのフロリダの役割を日本の中で四国が果たすべきというのです。

塩野さん曰く。四国は「気候の良さは抜群。食べ物と酒のうまさも抜群。値段も安い。医療施設や文化施設も意外に整っている。温泉もあるし歌舞伎場もある。おおらかな人が多い。」と。嬉しくなるくらいに四国の優位性が説かれています。もちろん、課題も指摘されています。道路網の不備です。そのため、南北の交通軸を確立して、四国の西端と九州の東端および四国の東端と紀伊半島の西端を結んでネットワーク化すべきと主張されています。まさに四国の新幹線の議論にもつながる四国と本州と九州を結ぶ広域高速交通網の整備が必要との認識です。

高松市と姉妹都市であるセント・ピーターズバーグ市もフロリダ州にあります。サンシャインシティと呼ばれ、海に開かれた都市であり、気候風土が似ているところから昭和36年以来提携を結んでいます。とすれば、四国の代表として高松がフロリダ化に名乗り出てもおかしくはないでしょう。

フロリダがアメリカの高齢者の憧れの土地であるように、日本では四国、そして高松が保養地や終の住処として人気となるためには何が必要か。塩野さんの話も参考にしながら、いろいろ考えてみたいと思います。

(注)「四国を日本のフロリダに 日本人へ157 (塩野七生)」(文藝春秋2016年6月号)